

サンホセ (SJ)・アグアスカリエンテス (AC) 日本人学校 小学部第5年生合同遠隔授業 社会科学習指導案

指導者 T1 宮本 豪 (SJ)

T2 阿部 邦広 (AC)

1 単元名 これからの食料生産とわたしたち

2 目 標

食料生産に従事している人々の工夫や努力などが、国民の食料を確保するうえで重要な役割を果たしているということについて考えを深め、表現することができる。(思考・判断・表現)

3 指導観

(1) 遠隔授業における視点

本単元では、国民の食生活を支える農業や水産業において、そこで従事する人々が安全で良質な物を確保するために取り組んでいる工夫や努力によって、国民生活の維持と向上が図られていることを児童が理解し、食料生産の意味を考えることができるようになることを目標としている。児童の食べ物に対する考え方は多様であり、地域や生活習慣によって幅広い。遠隔合同授業を通してその多様性に触れることで、学びをより深めることができると考える。

本校(SJ校)の研修テーマは『深い学びの実現』であり、重点目標は「ICT機器を効果的に活用し、児童生徒の対話的な学習を充実させる」ことである。この目標を達成するために、AC校との遠隔合同授業をZoomで実施し、協働学習を通して児童が多様な意見に触れ、考えを深めることができるようにしていく。

遠隔合同授業における、協働学習の質を高める手立てとして、学習支援アプリケーションである「ロイロノートスクール」をZoomと併用する。ロイロノートスクールでは、ワークシート等の配布や回収、比較提示などを行うことができる。また、考えを記述し、互いに送り合ったり、資料を共有したりすることもできる。こうした機能を生かすことで、実際の教室で行えることを、遠隔授業においてもある程度可能にすることができると考える。

ロイロノートスクールによって配布するワークシートとして、独自の思考ツール「シャカイカチャート」を活用する。この思考ツールの特徴としては、学習課題に対する仮解答をあらかじめ提示することにある。この仮解答は、それだけでは意味を理解し難く、他の情報を収集し、関連付けなければ真意に迫ることができない。このような過程の中で、児童が意欲的に調べ学習を行い、その考察や予想を話し合うことで、多角的に考える力を育みたい。本時では、「国産の食料品はなぜ安全なのか」という問いに対し『見えるから』という仮解答を提示する。この真意に迫るため、トレーサビリティや生産者の顔の表示といった情報を関連付け、『見えるから』という仮解答の真意をつかませたい。

まとめでは、学習課題に対する答えを、仮解答の真意を踏まえたものに再言語化する。その際にループリックを提示することで、視点を明確にし、考えを整理して表現することができると考える。

また、単元を通して各授業末に「Google form」による振り返りの時間を設定する。Google formはZoomのチャットからURLで移動し、手軽に振り返りを行えるだけでなく、その内容を教員側が蓄積・分析しやすいという利点がある。自身の学びや学習態度を振り返り、学びに向か

う意欲と充実感を培いたい。

単元前半では、両校の児童がコミュニケーションをとりながら課題把握ができるように、アイスブレイク形式の活動で国内の食料自給率について理解を深めさせ、同時にロイロノートスクールの様々な操作を活動に取り入れることで、アプリケーションの操作に慣れさせていく。このようにして、ICT活用力についても単元を通して段階的に向上させていきたい。

単元後半では、日本の農業協同組合（JA）の方へZoomでバーチャルインタビューを行う。場所を越えて繋がることのできるZoomの特徴を生かし、食料生産に携わる人たちの生の声を聞くことで、児童の学びをさらに深めるとともに、我が国の農業における課題について、他人事ではなく自分事であるという意識をもたせたい。我が国の食料生産の諸課題に向き合い、自分たちなりの解決策を提案することで、本単元の目標達成に迫りたいと考える。

- (2) 児童の実態 (S J 小学部第5学年 男子0人, 女子1人, 計1人)
 (A C 小学部第5学年 男子0人, 女子2人, 計2人) 両校合計3人
 事前の実態調査(8月25日実施) 3人

調査内容	調査結果
(1) 国産(日本国産)や外国産の食べ物にどんな印象をもちますか。 (2) 遠隔授業が楽しいですか。 (3) 遠隔授業で友だちの意見を聞きながら学習をすることができていますか。	(1)【国産】「美味しいし食べやすい」「安全・食べやすいように工夫している」「和食」「昔から伝わる食べ物」 【外国産】「おいしいけどあまり好きではない」「色気がある」「パンが多い」「安い」 (2)楽しい…3人, まあまあ楽しい…0人, どちらともいえない…0人, あまり楽しくない…0人, 楽しくない…0人 (3)できている…0人, まあまあできている…1人, あまりできていない…1人, できていない…1人

調査内容から、日本産や外国産の食料品について、ある程度具体的なイメージをもってはいるが、安全性に注目している児童は少ないということが分かる。安定した食生活を送れることが、様々な人の様々な工夫や努力によって支えられていることに気付かせたい。

遠隔授業において児童は楽しく取り組んでいる。しかし、S J校・A C校、両校共に学級の人数が非常に少なく、複数の友だちの意見を聞く経験が少ない。特にS J校は1人学級のため難しい。合同遠隔授業を通して、普段の環境を越えた活発な意見交流ができることを期待する。

4 学習計画 (6時間扱い) ※学校が再開されていないため、自宅からのオンライン授業で実施

時	主な学習内容	学習形態
1	「日本がロックダウン！食べられる料理を確保せよ！」 ゲームを通して日本が食料を輸入に頼っていること、食料自給率が低いことに関心をもつ。	合同
2	「どうして食料品の輸入が増えたのだろう」 シャカイカチャートを活用して調べ、話し合う。	合同
3 構	「どうして“国産”は安全なの？それは本当？」 シャカイカチャートを活用して調べ、話し合う。	合同
4	「食料を安定して確保するには、どのような工夫や努力が必要なのだろう」 農業協同組合（JA）の方へにバーチャルインタビューを行い、話し合う。	合同
5	「(インタビューで分かった課題)を解決するためにはどうしたらいいだろう」 JAの方から聞いた諸課題について、解決策を話し合う。→JAに提案	合同
6	「これからの食料生産について学んだことや大切にしていかなければならないことについて発信しよう！」学習を振り返り、音声付きスライドショーを作る。	合同

5 本時の授業

(1) 目標

国産（日本国産）や外国産の食料品における安全性を、生産・販売等に携わる人々の様々な工夫や努力と関連付けて考え、表現することができる。

(2) 準備

- ・Zoom ・iPad 教師用2台，児童生徒用3台 ・Applepencil 教師用2本，児童生徒用3本
- ・PC 教師用2台，児童生徒用3台 ・国産牛肉と外国産牛肉の写真（JPEG） ・ファシリテーションカード
- ・ワークシート（PDF） ・ロイロノートスクール（アプリケーション[iPadにインストール]）
- ・調べ学習用資料（JPEG等） ・検疫所動画（NHK for school） ・Google form（Web）

(3) 展開

☆遠隔授業における視点 □評価（方法）

学習活動及び内容	指導上の留意事項（○）	
	T 1	T 2
<p>1 前時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日のFT（ファシリテーター）を決める。 <p>2 「国産（日本国産）牛肉」と「ベトナム産牛肉」のどちらを買いたいか選ぶ。</p> <p><予想される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国産の方が安心だから国産がいい。 ・ベトナム産の方が安いけど，外国のお肉は少し不安。 ・安いからベトナム産を買う。 	<p>☆前時のワークシートを画面共有し，内容を想起しやすいようにする。</p> <p>○FTにファシリテーションカードを渡す。</p>	<p>☆画面共有ができていないか確認し，できていない場合はT2が共有する。</p>
<p>3 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>どうして“国産”は安全なの？それは本当？</p> </div> <p>（仮解答）『よく見えるから』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想を話し合う。 	<p>○写真を提示して選ばせる。国産を選んだ場合，その安全性が理由になってくることに着目させる。また，ベトナム産を選んだ場合は，その理由を受け止めたうえで，仮に値段が同じであった場合はどちらを選ぶかも問い，国産の安全性に焦点を合わせる。</p>	<p>☆「ミヤちゃん」が問いかける児童を指名する。</p>
<p>4 国産品の安全性について，ロイロノートを使用して調べ学習を行う。</p> <p>（1）調べる資料を次の中から選択する。</p> <p>① お肉のナゾの番号 ② たくさんの顔 ③ おいしさアプリ ④ 食べる通信</p> <p>（2）資料から分かったことをテキストカードに記入する。</p> <p><予想される記述例></p> <p>① お肉などに個体番号を付けることで，どんなえさを食べ，どんな環境で育ったのか分かるので，安心して買える。</p> <p>② 野菜などの売り場に，生産者の顔写真や名前，住所が書かれているので，誰が責任をもって育てたかが分かり，安心できる。</p> <p>③ アプリで野菜や果物の新鮮さなどを調べることで，安全性を確認できる。</p> <p>④ 生産者の仕事に取り組む姿や，こだわりを知ることで，安心し，納得して買える。</p>	<p>○仮解答を提示し，国内で起きた食料品問題に関係する新聞記事を一部紹介（画面共有）することで，安全性を確保することの重要性を認識させるようにする。</p>	<p>☆画面共有ができていない場合はT2が共有する。</p> <p>☆ワークシートをロイロノートで配布する。</p>
	<p>☆児童が，自分たちで資料を一人一つずつ選択して分担して調べるようにする。資料が一つ余るので，もしも自分の担当が早く終わった児童がいたら，調べても良いことにする。</p> <p>☆各資料は，ロイロノートの資料箱に保存しておく。</p>	
	<p>☆児童が調べ学習をしている間，ブレイクアウトセッションでミーティングルームを2つにする。メインルームで児童に画面共有をさせ，必要に応じて助言をする。</p> <p>○資料の内容が安全性にどうつながるのか児童が悩んでいる際は，その物の実態や成長過程が明確になることでどう感じるか考えるように促す。</p>	<p>☆ブレイクアウトセッションにおいて，セッションルームで児童に画面共有をさせ，必要に応じて助言をする。</p> <p>☆調べ学習中にロイロノートや端末などの不具合がないか様子を見る。なんらかの不具合が起きた場合は対応し，T1に伝える。</p>

<p>5 食料品の安全性について話し合う。</p> <p>(1) 調べた内容を報告し合い、ワークシートにそれぞれの内容をまとめる。</p> <p>(2) 検疫所の動画を見て分かったことを話し合う。</p> <p><予想される児童の発言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出品も日本の法律に合わせて安全性を確かめられていることが分かった。 ・検疫所で食料品に使われている農薬などをチェックし、安全性を確かめてからお店に並んでいる。 ・外国産でも安全と言えるのかもしれない。 <p>(3) 学習課題に対する答えについて話し合う。</p> <p><予想される児童の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内産は誰が作ったか分かるから安心。 ・どんな風に作られたかが分かるって安心。 ・消費者に食料品について知ってもらおうと色々な人が工夫や努力をしている。 ・『よく見える』っていうのは、食料品の色々な情報が分かるってことかな。 ・外国産もきちんとチェックしてもらうことで安心して買うことができる。 	<p>☆各児童が内容を報告している際に、資料画像を画面共有する。</p> <p>☆報告が終わり次第、ロイロノートで互いにテキストカードを送り合い、自分のワークシートに友達のもの貼り付けるようにする。</p>	<p>☆画面共有ができていない場合はT2が共有する。</p> <p>☆児童が互いに送り合うテキストカードを教師にも送ってもらい、教師用のワークシートに貼り付けておく。</p>
<p>☆ロイロノートで動画のWebカードを送り視聴させる。また、ブレイクアウトで別ルームに移動させ、視聴後戻るように指示する。(ローディングのため)</p>	<p>○「外国産も安全」という意見が出た場合、国産と比べた場合の安全性という点については軽く触れる程度にする。</p> <p>☆ワークシートを画面共有し、これまでの情報をPC画面で確認しながら話し合えるようにする。</p>	<p>☆検疫所について児童から出された意見をロイロノートのテキストカードにまとめ、各児童に送る。また、教師用ワークシートにも貼り付ける。</p> <p>☆画面共有ができていない場合はT2が共有する。</p>
<p>○「よく見える」という仮解答がどういう意味なのか、自分たちの調べたことと結び付けて考えるように促す。</p> <p>○ワークシートに、課題に対する答えを話し合いの内容を踏まえて自分の言葉で書くように指示する。</p>	<p>☆ロイロノートに提出箱を設置する。</p>	<p>☆バーチャル背景に、ルーブリックを提示し、まとめを行う視点を示す。</p>
<p>6 本時の学習を振り返り、まとめを行う。 各自がワークシートに記入する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>国産の食料品は、生産者の顔や育ててきた記録などを消費者に見えるようにすることで安全性を保っている。</p> <p>外国産も検疫所で検査などをすることで安全性を保っている。</p> </div>	<p>☆ロイロノートに提出箱を設置する。</p>	<p>☆バーチャル背景に、ルーブリックを提示し、まとめを行う視点を示す。</p>
<p>○国産・外国産食料品の安全性が、生産や販売に携わる人々の工夫や努力によって保たれているということを考え、自分の言葉で表現することができる。(ワークシート、発表)</p> <p>A: 「よく見える」ということは、トレーサビリティや生産者の顔など、食料品の情報が分かるということであり、このような情報が国産品の安全性確保につながっているということ、また、検疫所によって外国産品の安全性も検査されているということについて、具体的に自分の言葉でまとめている。</p> <p>B: 「よく見える」ということは、トレーサビリティや生産者の顔など、食料品の情報が分かるということであり、それによって国産品の安全性が確保されているということについて、自分の言葉でまとめている。</p>	<p>☆まとめを記入し終わった児童から、提出箱にワークシートを提出し、Google formで振り返りをするように指示する。</p> <p>☆ロイロノートで各児童の課題に対する解答を投影・比較し、共通理解を図る。</p>	<p>☆Google formのURLをチャットに貼り付ける。Google formが機能しているか確認する。</p> <p>☆ロイロノートの投影がうまくいかない場合、T2が行う。</p>
<p>7 本時の授業の自己評価を行う。 Google formで振り返りを入力する。</p>	<p>○次時では、現場で働く人にバーチャルインタビューをすることで、食料を安定して確保するためにどのような試みをしているのか、課題は何かを探ることを告げる。</p>	<p>○次時では、現場で働く人にバーチャルインタビューをすることで、食料を安定して確保するためにどのような試みをしているのか、課題は何かを探ることを告げる。</p>
<p>8 次時の学習に見通しをもつ。</p>	<p>○次時では、現場で働く人にバーチャルインタビューをすることで、食料を安定して確保するためにどのような試みをしているのか、課題は何かを探ることを告げる。</p>	<p>○次時では、現場で働く人にバーチャルインタビューをすることで、食料を安定して確保するためにどのような試みをしているのか、課題は何かを探ることを告げる。</p>

ワークシート (シャカイカチャート)

2020.9.29 シャカイ・イカチャート

どうして“^{こくさん}国産”は^{あんぜん}安全なの？ それは^{ほんとう}本当？

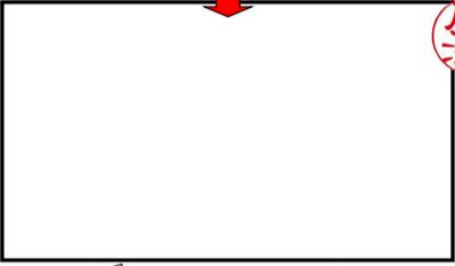


よく見えるから～

- 資料 (3つ選ぶ)
- ① お肉のナゾの番号
 - ② たくさんの顔
 - ③ おいしさアプリ
 - ④ 食べる通信



資料 ()



資料 ()



資料 ()

資料 ()



サンホセ（SJ）・アグアスカリエンテス（AC）日本人学校 小学部2年生合同遠隔授業
算数科学習指導案

指導者 T1 宝力 駿（SJ）

T2 太田 和志（AC）

1 単元名 かけ算（2）

2 目標

数量の関係に着目し、乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、乗法九九の構成の仕方を考え工夫し、表現している。 （思考・判断・表現）

3 指導観

（1）遠隔授業における視点

本単元は、既習の乗法のきまりを用いて、新たなかけ算の九九を見出していく単元である。これまで学習したことを活用することで多くの計算方法を見出すことができるため、協同学習を通して多様な考え方に触れさせていきたい。そのために、アグアスカリエンテス校との遠隔合同授業を通してより多くの児童同士で対話をする場を設定し、学びをより深めさせていきたいと考える。

本校（サンホセ校）の研究テーマは「深い学びの実現」であり、重点目標は「ICT 機器を効果的に活用し、児童生徒の対話的な学習を充実させる」ことである。遠隔合同授業において対話的な学習をより効果的に行うための環境設定として、学習支援アプリケーション「ロイロノートスクール」とテレビ会議システム「zoom」を併用する。

ロイロノートスクールの使用方法として、ワークシートやヒントカードの配布を行ったり、考えを書き込んだものを共有させることで話合いの補助としたりすることが考えられる。さらに、全体での練り上げの際での活用に役立てたり、児童一人一人の考え方を見取り、丁寧に添削・評価ができたりすることも考えられる。また、単元を通して、各授業末にロイロノートスクールのアンケート機能による振り返りの時間を設定することで、自身の学びや学習態度を振り返り、学びに向かわせる意欲と充実感を培いたい。

本単元では、zoom ブレイクアウト機能を活用し、小集団の話合いから、全体での話合いにつなげていく。本時では、問題を解決するために、箱Aについて考えるA1、A2グループ、箱Bについて考えるB1、B2グループに分ける。小集団での話合いの場面では、より多様な考えを出させるために、異なった課題を与えたA1とB1のグループ1、A2とB2のグループ2という2つのグループに分けて、それぞれの問題の解き方を交流させる。最後に全体でそれぞれの意見を共有した後、AB問題における解き方の共通事項を話し合っていく過程で本時の課題解決に迫っていく。一連の活動を通して、より積極的に話合いに参加し、多様な意見に触れさせることができると期待する。

(2) 児童(生徒)の実態 (S J 小学部第2学年 男子1人, 女子1人, 計2人)

(A C 小学部第2学年 男子3人, 女子5人, 計8人) 両校合計10人

事前の実態調査(10月16日実施) 9人

調査内容	調査結果
(1)前単元の九九をしっかりと習熟しているか (5、2、3、4の段)	(1)習熟している 2名 ほぼ習熟している 4名 習熟していない 3名
(2)遠隔授業を楽しくできているか	(2)楽しい7名 まあまあ楽しい2名 あまり楽しくない0名 楽しくない0名
(3)自分の考えを上手に発表できているか	(3)できている2名 まあまあできている4名 あまりできていない3名 できていない0名
(4)友達の考えを聞いて「なるほど」と思う ことはあるか	(4)よくある3名 たまにある2名 ほとんどない4名 まったくない0名

調査内容から、かけ算九九の習得に時間のかかる児童が数名いることが分かった。本時の自力解決で、かけ算九九でつまづいて思考が止まってしまうよう、九九表を渡すなどの支援をしていきたい。

また、遠隔での授業は楽しく参加している児童が多い反面、自分の考えを伝えたり、友達の考えによって自らの学びを深めたりする経験が十分ではないことが分かった。ロイロノートで配布したアレイ図を、動かしたり、丸で囲んだりすることで、より効果的な伝え合いや話し合いが展開できると期待する。また、ブレイクアウトで多様な話し合いの場をもつことで、友達の意見に触れる機会を充実させる。自分の考えを友達に紹介して認められたり、友達の考えを見て・聞いて、「なるほど」と思ったりすることで、学ぶ楽しさや達成感が得られることと考える。

4 学習計画□(17時間扱い)

時	主な学習内容	学習形態
1～6	6の段、7の段の九九の構成をし、理解する。	各校
7～11	8の段、9の段、1の段の構成をし、理解する。	各校
12	すべての九九の確認と習熟と定着を図る。	合同
13	九九表を見直し、乗数と積の関係、乗法の性質やきまりをまとめる。	合同
14	乗法の性質やきまりを活用し、簡単な2位数と1位数の乗法の答えを求め方を考える。	合同
15	倍を用いた問題解決に取り組む。	合同
16(本時)	乗法九九を総合的に活用して、ものの数の求め方を考える。	合同
17	単元の学習内容の定着をはかる。	各校

5 本時の授業

(1) 目標


ものの数の求め方を、乗法九九を総合的に活用することで工夫して考え、表現することができる。

(2) 準備

- ・ zoom ・ ipad (教師用 2 台、児童用 10 台) ・ Apple pencil (教師用 2 本、児童用 10 本)
- ・ PC (教師用 2 台、児童用 10 台) ・ zoom チャット (T 1 と T 2 の連絡用)
- ・ ロイロノートスクール (アプリケーション【ipad にインストール】) ・ 黒板用掲示物
- ・ 箱 A B の画像 (チョコレート)

(3) 展開

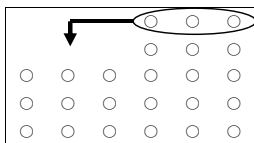
☆遠隔授業における視点 □評価 (方法)

学習活動及び内容	指導上の留意事項 (○)	
	T 1	T 2
ipad の準備をしておく ロイロノートはまだ開かない 1. 学習問題の確認をする。 チョコレートはどちらの箱の方が多いですか？ はこA はこB  2. 本時の学習課題を確認する。 どうすれば、かけ算をつかって数をかんたんに数えられるだろうか。 3. 九九を使うにはどうしたらよいかの見通しを立てる。 <予想される児童の反応> ・ チョコレートを上から下に移動すればいい ・ 上下や左右で切れれば、かけ算が使える。 ・ 空いているところが、埋まっていたらいいんだけど。 ・ まとまりごとに丸を付けて考えよう。 4. ロイロノートを使って自力解決をする。	○ipadでロイロノートをすぐに開けるようにしておくことを事前に指導する。 ○バーチャル背景で箱 A を提示する。 ○児童の予想から、その数え方に焦点を当て、より簡単な求め方として、かけ算に注目することを促す。 ○学習課題を黒板に提示する。 ○児童との簡単なやり取りを通して自力解決の見通しを持たせる。 ☆チョコレートの写真を画面共有しながら操作し、発言している児童の考えを伝えるための支援をする。 ○挙手で発言させる。	○バーチャル背景で箱 B を提示する。 ☆二人の画面をピンスポット機能を使って並べて大きく見えるようにする。 ☆T 1 の画面にピンスポット当てる。 ○やり取りがしっかりと聞こえているか・理解されているか様子を見て、問題があるようなら T 1 に伝える。 ☆画面共有がしっかりできているか確認する。不具合がある場合は代わりに行う。
	○事前に各児童を A・B に割り振っておき、それぞれのロイロノートにワークシートとヘルプカードを入れておく。 ○ロイロノートを開くように指示する。	

<予想される考え方>

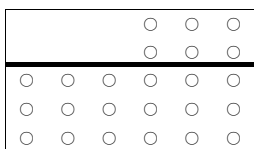
課題Aグループ

①移動する



$4 \times 6 = 24$

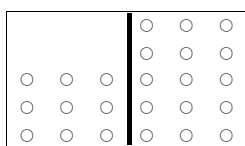
②上下に分ける



$2 \times 3 = 6 \quad 3 \times 6 = 18$

$6 + 18 = 24$

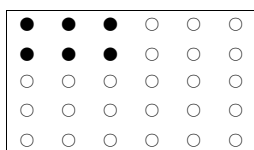
③左右に分ける



$3 \times 3 = 9 \quad 5 \times 3 = 15$

$9 + 15 = 24$

④足りない分を補う



$5 \times 6 = 30 \quad 2 \times 3 = 6$

$30 - 6 = 24$

5. 話し合っって考え方を確認する。

(1) グループでの討議

グループ1とグループ2のそれぞれで、自分達の考えた方法を交流する。

①自分のワークシートを見せながら、考えた方法を伝え合う。

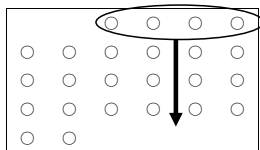
②AとBの考え方を比較する。

<予想される児童の反応>

- ・ AもBも分け方は違うけど、分けて考えられる。
- ・ 動かしてきれいに並べたら、どちらも計算しやすい。
- ・ 足りないところに埋めたら、どちらも長方形になった。
- ・ Aは3つ、Bは4つのまとまりで囲みやすい。

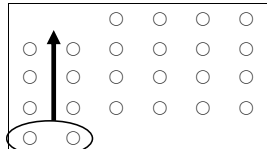
課題Bグループ

①下に移動する



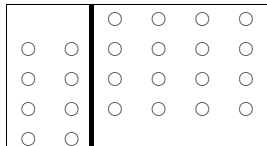
$4 \times 6 = 24$

②上に移動する



$4 \times 6 = 24$

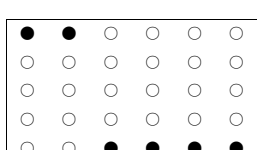
③左右に分ける



$4 \times 2 = 8 \quad 4 \times 4 = 16$

$8 + 16 = 24$

④足りない分を補う



$5 \times 6 = 30$

$30 - 2 - 4 = 24$

○一つの考え方について終わったら、zoomの反応機能👍を使って教師に伝えてから、他の考えにも取り組むように指示する。

○つまずきのある児童に九九表を配布する。

☆ヘルプカードを出してきた児童やつまずきのある児童にヒントカード等で支援する。

(主に SJ 児童)

○事前の調査などで支援を要することが分かっている児童には、ヘルプカードの有無に限らずに見守りながら、必要に応じて支援をする。(主に SJ 児童)

☆ヘルプカードを出してきた児童やつまずきのある児童にヒントカード等で支援する。

(主に AC 児童)

○事前の調査などで支援を要することが分かっている児童には、ヘルプカードの有無に限らずに見守りながら、必要に応じて支援をする。(主に AC 児童)

○自分の考えの書いたワークシートを提出させる。2つ以上考えられた場合は、カードをつなげて提出させる。

○ワークシートが完成しなかった児童に関しては、途中経過で提出させ、グループ討議の際にどのような考えだったか聞き取る。

○話し合いの流れを説明する。

○グループ1のファシリテーターとして支援する。


☆ブレイクアウトセッションで2つのグループに分ける。

○グループ2のファシリテーターとして支援する。

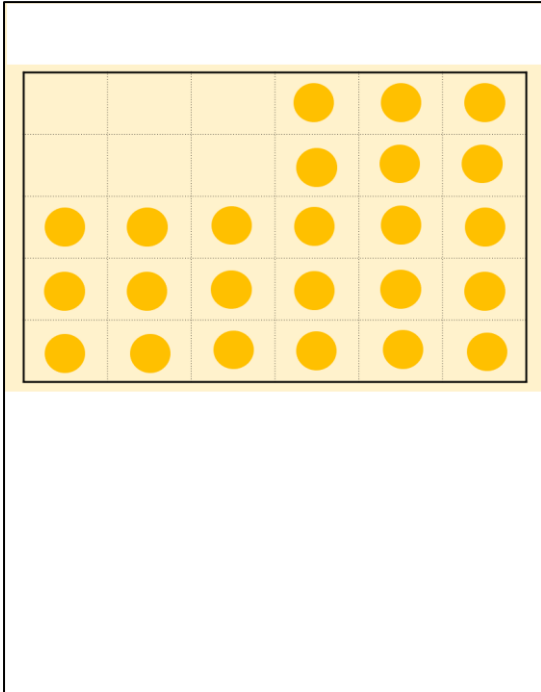
☆発表者のワークシートを画面共有する。

☆ロイロノートの「比較」機能を使って、ワークシートの比較をする。

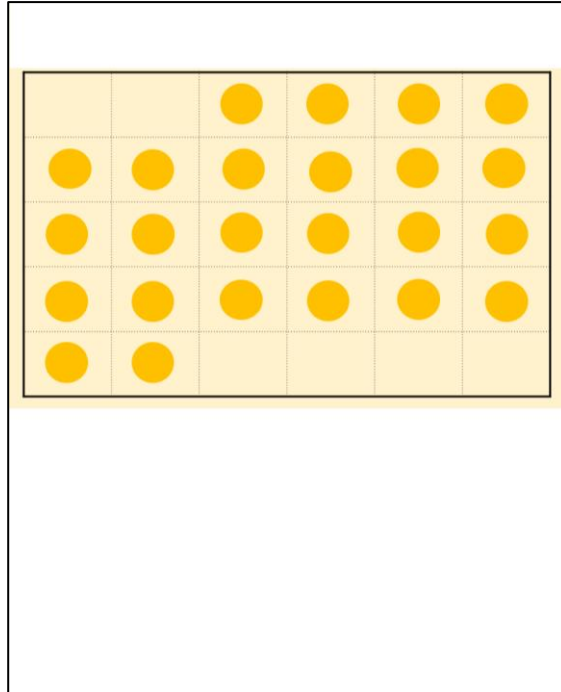
○各グループで出た方法で、もう一方のグループでも同様にできるか注目させ、数える対称の並び方などによって適した乗法の仕方があることにも気づかせたい。

<p>(2) 全体での討議 それぞれのグループででた解法を共有する。</p> <p>6. 本時の学習を振り返り、それぞれの考え方を仲間分けする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • いくつかに分ける。(縦、横、複数) = 「分けるさくせん」 • 足りないところを一度埋めてから、後で引く = 「うめるさくせん」 • はみ出ているところを移動する。 = 「いどうさくせん」 • いくつかのまとまりで囲んでいる。 = 「かこみさくせん」 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>同じ数のまとまりにちゅうもくすれば、かけ算を使って答えをもとめられます。</p> </div> <p>7. 練習問題に取り組む。 ○の数をかけ算を使ってもとめましょう。</p>  <p>○まとまりごとに○で囲って (または移動して) 式で表す。</p> <p>7. 本時の授業の自己評価を行う。 ロイロノートのアンケートを入力する。</p>	<p>☆発表者カードを指定の児童の送り、発表者として指名する。 ☆進捗状況を zoom チャットで確認する。</p>		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>○全体討議の進行をする。</p> <p>○それぞれの考え方を仲間分けしながら、まとめを練り上げていく。 ☆提出されたワークシートを「回答共有」し、「比較」の機能を使って仲間分けしていく。</p> <p>○それぞれの考え方に名前を付けた掲示物を黒板に張る。</p> <p>○まとめを黒板に提示する。</p> <p>☆ロイロノートでワークシートを配布する。</p> <p>○問題解決の目標をルーブリックで提示する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>☆発表者のワークシートをロイロノートの「画面配信」機能を使って共有する。</p> <p>☆ロイロノートの画面が、正しく共有され、仲間分けができているかを確認し、不具合がある場合は T 1 に伝える。</p> <p>☆掲示物が見やすいように T 1 にピンスポットを当てる。</p> <p>○黒板が見えているか児童に確認する。見えていないようだったら T 1 に伝える。</p> <p>☆バーチャル背景でクッキーの写真を出す。</p> <p>☆困り感のある児童にヒントカードを出すなどして支援する。</p> </td> </tr> </table>	<p>○全体討議の進行をする。</p> <p>○それぞれの考え方を仲間分けしながら、まとめを練り上げていく。 ☆提出されたワークシートを「回答共有」し、「比較」の機能を使って仲間分けしていく。</p> <p>○それぞれの考え方に名前を付けた掲示物を黒板に張る。</p> <p>○まとめを黒板に提示する。</p> <p>☆ロイロノートでワークシートを配布する。</p> <p>○問題解決の目標をルーブリックで提示する。</p>	<p>☆発表者のワークシートをロイロノートの「画面配信」機能を使って共有する。</p> <p>☆ロイロノートの画面が、正しく共有され、仲間分けができているかを確認し、不具合がある場合は T 1 に伝える。</p> <p>☆掲示物が見やすいように T 1 にピンスポットを当てる。</p> <p>○黒板が見えているか児童に確認する。見えていないようだったら T 1 に伝える。</p> <p>☆バーチャル背景でクッキーの写真を出す。</p> <p>☆困り感のある児童にヒントカードを出すなどして支援する。</p>
<p>○全体討議の進行をする。</p> <p>○それぞれの考え方を仲間分けしながら、まとめを練り上げていく。 ☆提出されたワークシートを「回答共有」し、「比較」の機能を使って仲間分けしていく。</p> <p>○それぞれの考え方に名前を付けた掲示物を黒板に張る。</p> <p>○まとめを黒板に提示する。</p> <p>☆ロイロノートでワークシートを配布する。</p> <p>○問題解決の目標をルーブリックで提示する。</p>	<p>☆発表者のワークシートをロイロノートの「画面配信」機能を使って共有する。</p> <p>☆ロイロノートの画面が、正しく共有され、仲間分けができているかを確認し、不具合がある場合は T 1 に伝える。</p> <p>☆掲示物が見やすいように T 1 にピンスポットを当てる。</p> <p>○黒板が見えているか児童に確認する。見えていないようだったら T 1 に伝える。</p> <p>☆バーチャル背景でクッキーの写真を出す。</p> <p>☆困り感のある児童にヒントカードを出すなどして支援する。</p>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☒ ものの数の求め方を、かけ算を用いた多様な考え方で、表現することができる。 (ワークシート)</p> <p>A: かけ算を使った二つ以上の考え方で問題を解いている。</p> <p>B: かけ算を使った方法で、問題を解いている。</p> </div>		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>☆児童の解答を共有しながら、答え合わせをする。</p> <p>☆ロイロノートでアンケートを配布する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>☆回答共有がしっかりとできている確認し、不具合があれば T 1 に伝える。</p> </td> </tr> </table>	<p>☆児童の解答を共有しながら、答え合わせをする。</p> <p>☆ロイロノートでアンケートを配布する。</p>	<p>☆回答共有がしっかりとできている確認し、不具合があれば T 1 に伝える。</p>
<p>☆児童の解答を共有しながら、答え合わせをする。</p> <p>☆ロイロノートでアンケートを配布する。</p>	<p>☆回答共有がしっかりとできている確認し、不具合があれば T 1 に伝える。</p>		

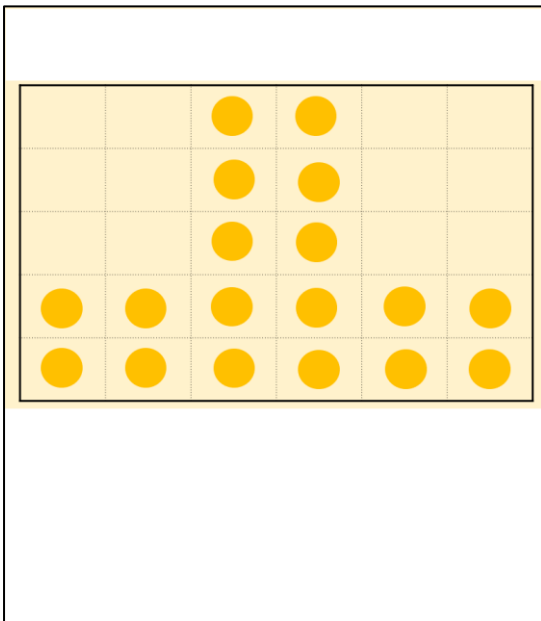
ワークシートA




ワークシートB





ワークシートC



ループリック

レベル3 ←
2つより多い考え方でできた ← 

レベル2 ←
1つの考え方でできた ← 

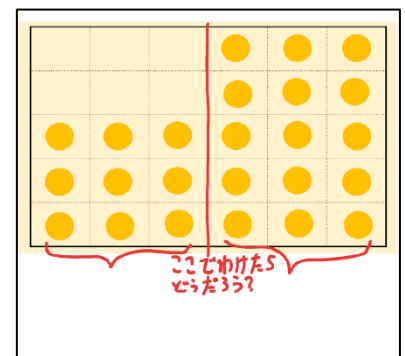
レベル1 ←
できなかった ← 

ヒントカード① (九九表)

かけ算九九のひょう

		かける数								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18	
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27	
4	4	8	12	16	20	24	28	32	36	
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45	
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54	
7	7	14	21	28	35	42	49	56	63	
8	8	16	24	32	40	48	56	64	72	
9	9	18	27	36	45	54	63	72	81	

ヒントカード② (解き方)



**サンホセ・アグアスカリエンテス日本人学校 小学部6年生合同遠隔授業
特別の教科 道徳 学習指導案**

指導者 T1 下重 卓也 (SJ)

T2 内海 優奈 (AC)

- 1 主題名 「友達とは」 B 友情、信頼
教材名 「コスモスの花」(光村出版社 きみがいちばんひかるとき)

2 ねらい

いつもは目立たない北山が友達から賞賛されたことを快く思えない「ぼく」の姿を通して、友達とはどんな存在なのかについて考えさせ、真の友情を育て、互いを尊重し合う健全な友達関係を築こうとする心情を育てる。

3 指導観

(1)ねらいとする道徳的価値について

友達は家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、児童にとっては最も重要な人間関係の1つである。友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。また、友情によって結ばれた友達は豊かに生きるうえで、かけがえのない存在となりうる。しかし、自分本位の考え方や行動から、友達を傷つけてしまうこともある。自分ではそれに気づかない場合もあるだろう。このような状況では信頼感や友情を育むことが難しくなる。よりよい友達関係を築くためには、友達同士が互いに相手の立場に立ち、相手の気持ちに寄り添うことが大切であり、心と心が通い合えば、安心感や信頼感が生まれる。このように、友達同士の相互の信頼の下に、協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い、高め合うような、真の友情を育てるとともに、互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていくようにすることが求められる。

- (2)児童の実態について (SJ 小学部6学年 女子1人, 計1人)
(AC 小学部6学年 女子2人, 計2人) 両校合計3人

評価	「思考力・判断力・表現力等」における具体的な児童の姿	合計
S (A1に 加えて)	課題や問いの結論について振り返ったり、新たな課題や閃き、知識などを創造することができる。	1
	新たな課題や閃きに対して、どのように問題解決をするか考えたり、実際に解決しようとしたりすることができる。	1
	表現したことを振り返って新たな表現方法に気付いたり、聞き手の意見や反応を元にさらに考えを深めたり、表現を工夫したりすることができる。	0
A1 (A2に 加えて)	課題や問いの解決にむけて情報を整理・比較し、相違点や類似点に気が付くことができる。	3
	対話や知識・技能を活用することで、新たな知識・技能を獲得することができる。	3
	課題や問いに対する自分の結論を決定し、ノートにまとめたり発表することができる。	3
A2	考えや学んだことを、言語だけでなく、図や写真、スライドなど工夫して表現することができる。※発達段階に応じた表現技法	3
	自分の考えをもち、ノートに書いたり発表したりするなど表現することができる。	3
	課題や問いに対して予想をもち、必要な情報を探したり選んだりすることができる。	3

上記の調査内容は、SJ校の目指す児童の資質・能力「思考力・判断力・表現力等」のルーブリックである。これまでの学習を通して、どの児童もA1評価に該当していることが分かる。さらにその上のS評価まで高めていくためにも、自分のこれまでの経験だけでは説明ができない、より問題解決に迫った学習展開を考えていきたい。そのような状況をつくることで、話し合いを通して友達の考えと自分の考えを比較した時に、自分の考えについて深く考えたり、自分たちの話し合いから新たな問いが見いだせたりすることができると思う。また、本授業での話し合いでは答えを一つにまとめる必要はないと考える。むしろ、答えを導き出そうとする過程の中で自分の考えがどのように変わっていったのか、深まっていったのかを実感できるようにしたい。

(3)教材について

本教材には、児童と同じ年頃の主人公の友達に対する複雑な感情が描かれている。主人公の「ぼく」には、北山という友達がいる。北山は、何事にも積極的な「ぼく」とは対照的な、クラスでは目立つことがない存在である。全くタイプの違う2人だが、気が合い、いつもいっしょに過ごしていた。ある日、北山が花を生けるという能力を発揮したことで、クラスの注目を集める。そこで、「ぼく」は北山に対して複雑な思いを抱く。「ぼく」の姿を通して、友達に対する複雑な感情を見つめながら、友達とはどんな存在なのかを考えさせることができると考え、本教材を選んだ。

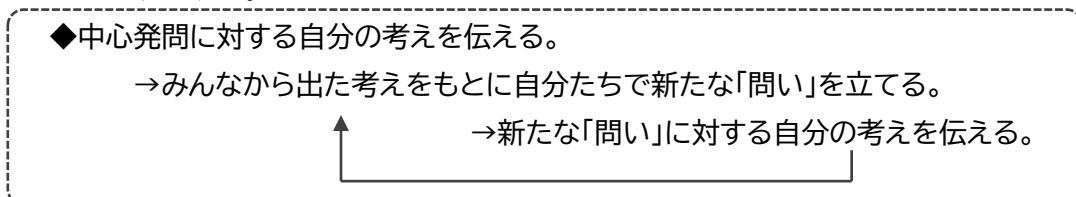
(4) 研究主題に迫るための手立て

① 遠隔授業における視点

遠隔授業においても、児童がより道徳的価値に迫り、指導内容を自分との関わりで捉え、切実感をもって学習に取り組んでいけるようにするためには主体的な学びに向けた工夫が必要になる。そこで、本時の学習では導入時に1学期に実施した道徳の合同遠隔授業「ロレンゾの友達」の学習での振り返りを活用し、自分は友達とはどんな存在として捉えてきたのかを振り返られるようにしていく。今現在も、同じ考えなのか、それとも別な考えなのかを問うことで、自分もつ友達像を再確認したい。そして、授業の終わりにもう一度友達とはどんな存在なのかを問うことで、友達に対する考えの変化や深まりを実感できるようにしたい。その際、Googleドキュメントを活用して、授業の初めと終わりで自分や友達の考えが見られるように工夫する。

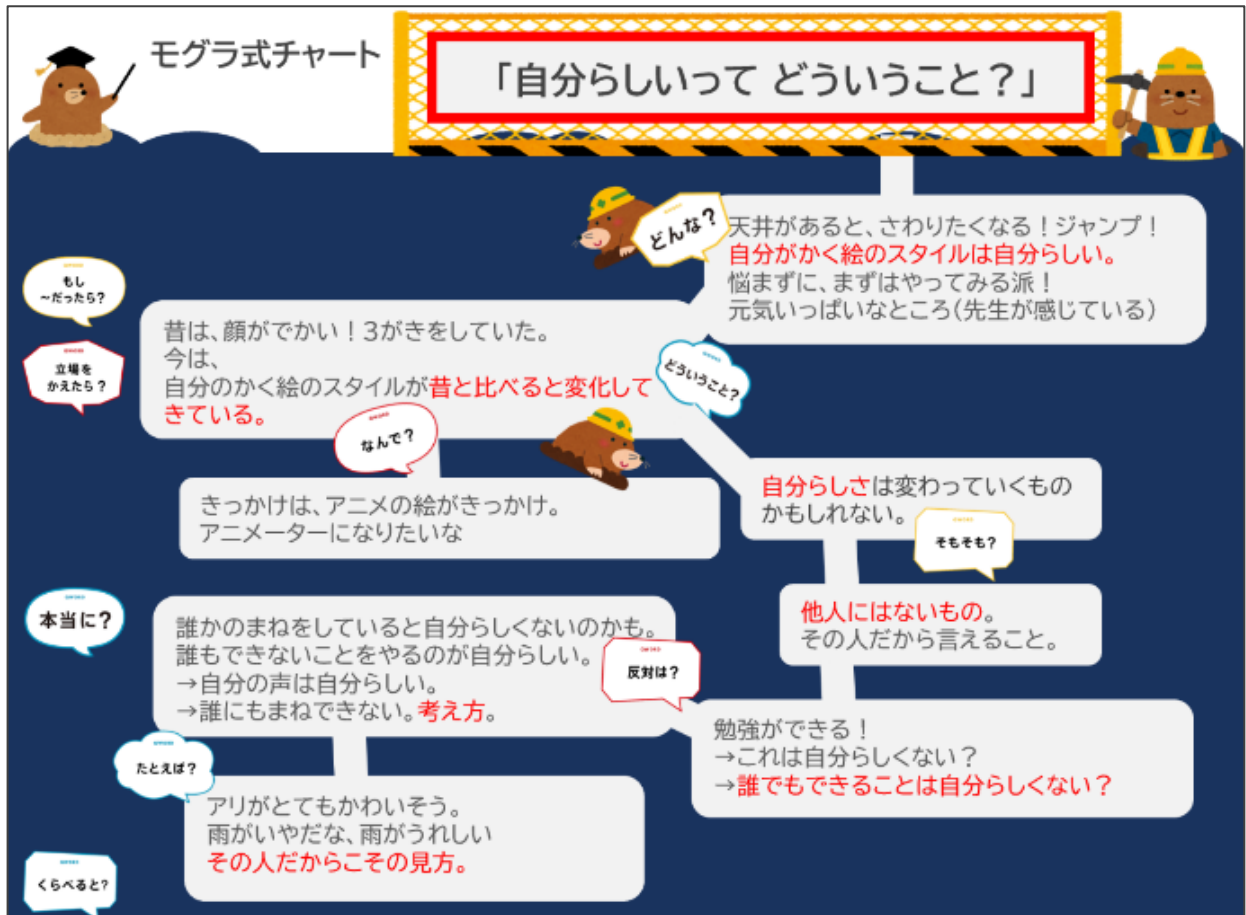
② 話し合いの場の充実と「問い」の焦点化

道徳科において、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深められるようにするには、児童が自分の考えを交えながら話し合いを深めていく学習活動が必要になる。本時ではそのように話し合いを深めていけるように、次のような流れを繰り返して話し合いを進めていけるようにする。

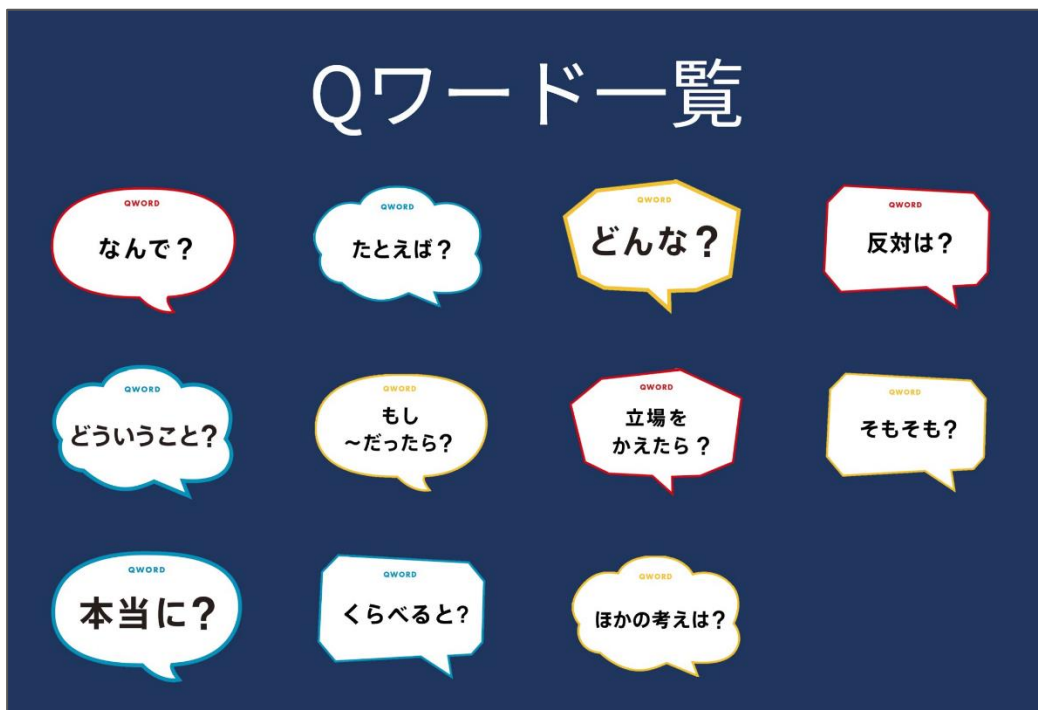


ただ、このような話し合いの場を設定しても、話し合いを上手く深めていけなかったり、話が逸れてしまったりして、主題に迫れないということもある。したがって、本時では、より充実した話し合いの場になるように、「モグラ式チャート」と「Qワード」を用意した。

「モグラ式チャート」とは、右図にあるチャート図のことである。児童から出た考えや問いを掘り下げる形で記録していくことで、児童が今何について話しているのか、自分たちの考えがどのように深まっていったのか、広がっているのかを視覚化できるようにした。



また、「Qワード」とは、「なぜ?」「もし～だったら?」「そもそも?」などといった、「問い」を立てる際の視点をキーワード化したものである。この視点があることで、話し合いの中で児童自らが「問い」を立てやすくなり、主題に迫ったより主体的で協働的な話し合いを進めていけると考えた。



6 本時の授業

(1) 準備

- ・Zoom ・PC (教師用2台, 児童用3台) ・ロイロノート(板書用)
- ・Google ドキュメント(児童の振り返り記述用)

(2) 展開

★研究主題に迫るための視点

学習活動(主な発問と予想される児童の反応)	指導上の留意事項 (○)	
	T 1	T 2
<p>1 「ロレンゾの友達」の時の振り返りの内容をもとに、「本当の友達」について改めて考える。</p> <p style="text-align: center;">【3分】</p> <p>○自分にとって「本当の友達」とは、どんな人のことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信じていることができる、信用できる人のこと。 ・互いに信用できる人のこと。 	<p>○画面共有ができていないか確認し、できていない場合はT1が共有する。</p> <p>○それぞれが現時点でもっている友達像を出し合い、本時のめあてにつなげる。</p>	<p>★「ロレンゾの友達」の際の振り返りを画面共有する。</p>
<p>友達とは、どんな存在なのだろう。</p>		
<p>2 「コスモスの花」を読んで話し合う。【30分】</p> <p>○「ぼく」にとって北山は、友達と言えるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北山のことを悪く言っているのは友達とは言えない。 ・友達ではない。友達なら北山のよいところを認めてあげるはず。 ・周りの友達が北山のことを悪く言ったときに「やめろよ」と言ったから友達だと思う。 	<p>○本文を朗読する。</p> <p>★発問内容に対する児童の考えを引き出す。</p> <p>★児童の考えから、考えを深めていくための新たな問いを引き出す。</p> <p>★問いを引き出す際には、問いの視点となる「Qワード」を活用できるようにする。</p>	<p>○本文を画面共有し、朗読に合わせて本文のスライドを動かす。</p> <p>★ロイロノートにあるモグラ式チャートを画面共有し、スライドを映し、児童の発言をモグラチャートに書き込む。</p>
<p>3 学習を振り返る。【12分】</p> <p>○自分にとって友達とはどんな存在なのか、今日の話し合いを通して考えたことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いのよいところを認め合える存在。 	<p>○板書の内容をドキュメントに貼り付けて児童が見られるようにする。</p> <p>○振り返りの内容をもとによりよい友達関係を築いていくことの大切さを伝える。</p>	<p>○Google ドキュメントをZoomチャットで送る。</p>

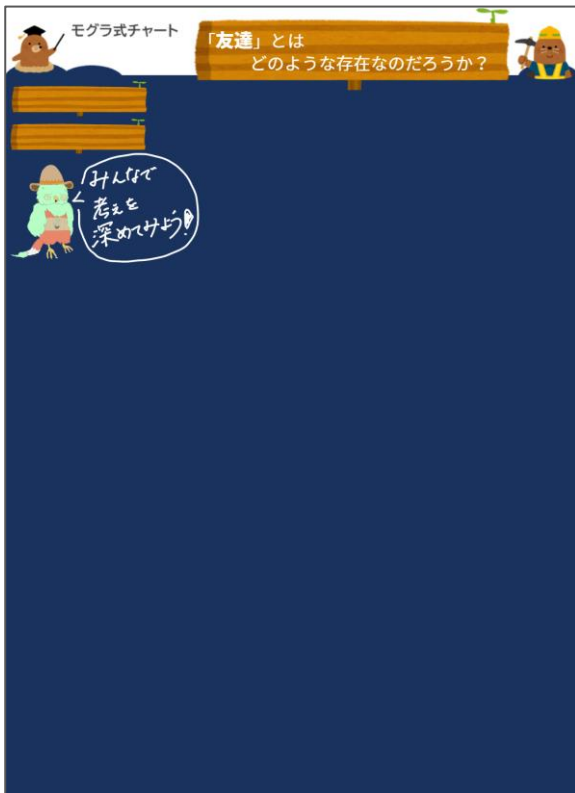
(3) 学習資料

① 「ロレンゾの友達」の学習の際に振り返り(Google ドキュメント)

① 本当の友達とは、どのようなものだと思いますか。

楓	本当の友達とは、自分が意見を出すのではなくて、相手がこうしたいという意見を聞く。その人を信じられたら友達だと思う。
花帆	本当の友達とは、お互いに信用できること。相手のことや自分が納得できたかで信じたり、信用できなかつたりする。もし信じられなかったとしても妥協するより、その状況にあった提案をする方が相手の為にもなるのかなと思った。
美良	本当の友達とは、自分が信用できる人。もしも自分が信頼できなそうな人だったり、すぐ秘密を話すような人だったら、私は、それを友達と言わない。

② モグラ式チャート(ロイロノート)



③ 振り返りシート(Google ドキュメント)

「コスモスの花」 振り返りシート	
◆ 1学期の「ロレンゾの友達」での振り返り	
① 本当の友達とは、どのようなものだと思いますか。	
楓	本当の友達とは、自分が意見を出すのではなくて、相手がこうしたいという意見を聞く。その人を信じられたら友達だと思う。
花帆	本当の友達とは、お互いに信用できること。相手のことや自分が納得できたかで信じたり、信用できなかつたりする。もし信じられなかったとしても妥協するより、その状況にあった提案をする方が相手の為にもなるのかなと思った。
美良	本当の友達とは、自分が信用できる人。もしも自分が信頼できなそうな人だったり、すぐ秘密を話すような人だったら、私は、それを友達と言わない。
◆ 今日の学習を通して、「友達とは、どのような存在」だと考えますか。自分の考えをまとめよう。	
楓	
花帆	
美良	